

令和4年度 四国山地緑の回廊  
(剣山地区)  
モニタリング調査  
公表資料

令和5年3月

四 国 森 林 管 理 局

有限会社 エー環境研究所



## 四国山地緑の回廊 剣山地区

管轄森林管理局・署	四国森林管理局・徳島森林管理署・高知中部森林管理署・安芸森林管理署
所在地	三好市、那賀町、大豊町、香美市、馬路村、安芸市
面積	約 9,644 ha
設定年	設定：平成 15 年 3 月
緑の回廊の概要 (設定目的)	剣山を中心にして東西、南方面にのびる国有林野および民有林をつなぐ延長約 58km、幅約 2km の回廊である。西熊山生物群集保護林をはじめとする 8 箇所の保護林を結ぶ。設定面積は、約 9,644ha で、結ばれる保護林（約 1,376ha）を合わせると、約 11,020ha になる。



### モニタリング調査の概要

実施年度	令和 4 年度
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査、動物調査、聞き取り調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■資料調査：既往文献・資料の収集、保護林情報図の作成</li> <li>■森林概況調査：樹木の生育状況の把握及び被害状況の把握、下層植生の生育状況の把握、病虫害、鳥獣害、気象害の発生状況の把握</li> <li>■森林詳細調査：高木層から草本層で毎木調査及び植生調査、概況平面図の作成、標準地断面模式図の作成</li> <li>■動物調査(哺乳類)：自動撮影カメラの設置、巣箱かけ調査、ツキノワグマの誘引物質の設置、コウモリ調査、シカの被害状況調査、フィールドサイン調査</li> <li>■動物調査(鳥類)：ラインセンサス及びスポットセンサス</li> </ul>
結果概要	<p>森林調査の結果、高木層から低木層の林相や林種は、数年間で変化はみられなかった。また、動物調査ではツキノワグマやヤマネ、カモシカなどが確認されたことから、現状では、自然度の高い森林が維持され、緑の回廊の機能が発揮されていると考えられた。</p> <p>ただし、下層植生は植被率が減少し、数年間、継続的にニホンジカによる食害の影響を受けていると考えられる。</p> <p>よって、今後もモニタリング調査を実施し、ニホンジカによる食害の影響が高木層や亜高木層に及ぶと評価された場合は、緑の回廊や保護林周辺での防鹿柵の設置や高木層や亜高木層の樹木の幹に保護ネットの設置といったニホンジカの食害への対策を検討する必要がある。</p>